

事務事業評価シート

(評価対象年度：令和 2 年度)

1. 基本的事項【PLAN】

①事務事業名		消防団事業				②事業番号		1409	
③事業類型		1. 法上(必須)事業		④開始年度	昭和 31 年度	⑤終了予定年度	年度	○ 設定なし	
⑥根拠法令等	○ 法令	○ 条例	○ 規則	要綱	計画等	○ その他	法令等の名称 泉南市消防団設置条例		
⑦実施手法	直営	全部委託	一部委託	○ 補助・負担		その他			
⑧関連予算科目コード		款	8	項	1	目	2	細目	1
⑨担当部名		⑩担当課名					会計 一般会計		
総合政策部		危機管理課							

2. 事務事業の現状把握【DO】

〔1〕事務事業の目的・事業内容

(1)対象(誰、何に対して事業を行うのか)		対象指標(対象者数を表す指標)		単位
①	泉南市消防団	①	泉南市消防団	団体
②	泉南市民	②	泉南市民	人
(2)事業内容(具体的な事務事業の内容、どのような方法で実施しているか)		活動指標(活動の量を表す指標)		単位
消防団運営に関する事業として、火災出動時の費用弁償等の支払い、報酬の支払い、福利厚生事業、教育研修等を行う。		①	火災発生件数	回
		②	団員の条例定数	人
		③	—	
(3)意図(対象をどのような状態にしたいか、何をねらっているのか)		成果指標(意図の達成度を表す指標)		単位
消防団員の士気の高揚及び技術の充実に図り、火災、その他の災害から市民の生命、身体及び財産を守る。		消火活動出動回数		回
		①	計算式	—
		団員数		人
		②	計算式	—
		—		
		③	計算式	—
(4)結果(対象を意図する状態にすることで、何に結びつくか。上位施策との関連)		総合計画体系上の位置付け		
社会環境の変化により、多様化している災害や事故に対する迅速・適切な消防・救急医療活動ができる消防体制の基盤を充実する。		政策(章)	4	おだやかに暮らせる、安全と安心のまち
		施策大(節)	1	災害や事故に対してその被害を最小化できる安全なまちをめざします
		施策中	2	消防・救急体制の充実
		施策小	1	消防体制基盤の充実

〔2〕各種指標値、事業費の推移

	指標名	単位	H30実績	R1実績	R2実績	R3見込	R4目標	
対象指標①	泉南市消防団	団体	6	6	6	6	6	指標値の推移における特殊要因などの説明
対象指標②	泉南市民	人	61,984	61,457	60,795	—	—	
活動指標①	火災発生件数	回	9	17	6	—	—	
活動指標②	団員の条例定数	人	173	173	173	—	—	—
活動指標③	—							
成果指標①	消火活動出動回数	回	7	7	4	—	—	
成果指標②	団員数	人	173	172	172	—	—	事業費などの推移における特殊要因などの説明
成果指標③	—							
事業費	投入人員	人	0.46	0.56	0.57	0.56	0.56	
	任期付職員	人	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	R1増の要因は需用費被服費6,063千円、備品購入費機械器具費1,834千円消防団ポンプ車操法訓練に伴う資機材及びデジタル無線機等。
	臨時職員	人	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	
	事業費	千円	3,729	4,319	4,350	4,274	4,274	
	人件費(投入人員*単価)	千円	34,326	43,771	35,437	37,812	37,812	
	直接事業費	千円	38,055	48,090	39,787	42,086	42,086	
財源内訳	国庫支出金	千円	0	0	0	0	0	
	府支出金	千円	0	0	0	0	0	
	受益者負担金	千円	0	0	0	0	0	
	その他特定財源	千円	4,427	4,992	7,234	8,808	8,808	
	一般財源	千円	33,628	43,098	32,553	33,278	33,278	

〔3〕事務事業開始の経緯、状況の変化、評価結果への対応

①この事業を開始したきっかけは何か。	消防法の規定により、昭和44年10月14日、泉南市条例第15号の規定により消防団組織設置条例が設置と同時に開始された。
②開始から現在までこの事務事業を取り巻く状況は、どのように変化したか。また、今後どのように変化していくと考えられるか。	ライフスタイルの多様化や住環境の変化に伴い、広域に至る大規模な火災や災害対応において、消防署との連携強化を図ることができた。
③前年度の評価結果を受けて行った改革・改善の取組はあるか。	—

〔1〕目的妥当性(必要性)

A.高い B.やや高い C.やや低い D.低い

〔1〕の評価

A

〔2〕有効性

A.高い B.やや高い C.やや低い D.低い

[2]の評価

A

〔3〕効率性

A.高い B.やや高い C.やや低い D.低い

〔3〕の評価

A

4. 総合評価

5. 改革、改善案【ACTION】

＜今後の方向性＞

ア	ア. 現状のまま継続	イ. 見直しのうえで継続	ウ. 終了 ↓ (年まで)	エ. 休止 ↓ (年から)	オ. 廃止 ↓ (年から)
イ	＜今後の展開方針＞ a. 重点化する(集中的なコスト投入) c. 効率化する(コストを下げる) b. 手段を改善する(実施主体や実施手段を変える) d. 簡素化する(規模を縮小する) e. 統合する(他の事務事業と統合する)				
①改革、改善の具体案、実施年度など	—				
②改革・改善を実現するうえで、解決すべき課題及び考えられるその解決策	—				